



第36回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

女子		令和8年2月14日	17:25 開始
2回戦		グリーンアリーナ神戸	D

◎	京都両洋	78	<table border="1"> <tr><td>26</td><td>1st</td><td>13</td></tr> <tr><td>17</td><td>2nd</td><td>16</td></tr> <tr><td>23</td><td>3rd</td><td>14</td></tr> <tr><td>12</td><td>4th</td><td>13</td></tr> </table>	26	1st	13	17	2nd	16	23	3rd	14	12	4th	13	56	大阪桐蔭
26	1st	13															
17	2nd	16															
23	3rd	14															
12	4th	13															

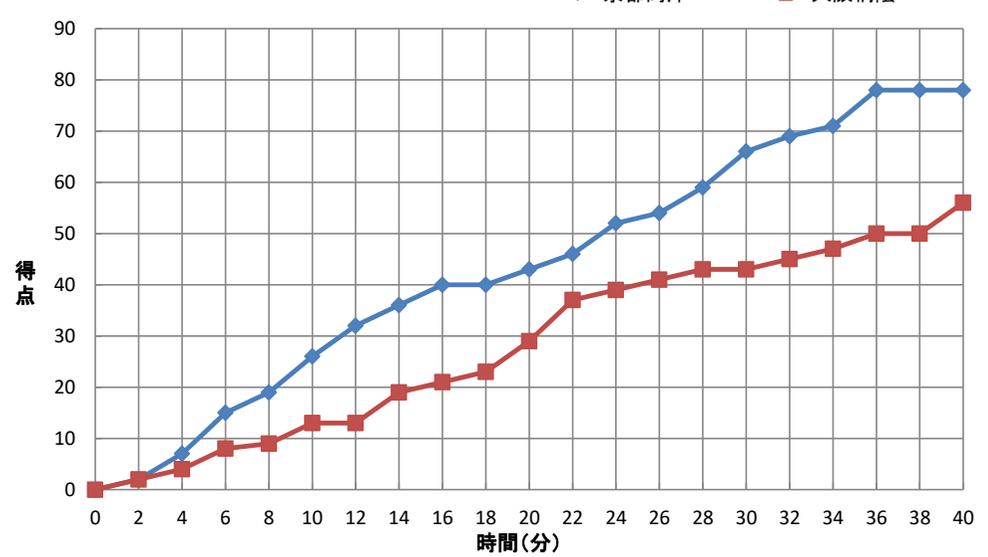
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
4	片山 志歩	0	0	0	0	1	* 4	松葉 美緒	9	0	4	1	2
* 7	山本 千紵	10	2	2	0	0	* 5	井入 天希	0	0	0	0	1
* 8	アレボ ギフト オノメ	30	0	13	4	3	* 6	申 俐華	14	0	4	6	5
* 9	外川 穂華	6	0	3	0	5	7	濱口 爽	-	-	-	-	-
12	松下 ミレナ	-	-	-	-	-	* 8	山田 凜音	12	2	3	0	2
15	近藤 詩	0	0	0	0	1	* 9	上田 葉	6	0	3	0	4
17	大西 凜子	-	-	-	-	-	10	池本 紗優	5	0	1	3	0
21	増本 莉実	-	-	-	-	-	11	小寺 和奏	-	-	-	-	-
23	脇坂 紗羽	0	0	0	0	1	12	島田 夢子	0	0	0	0	0
24	中芝 琴芭	0	0	0	0	0	13	寺町 寧々花	4	0	1	2	0
25	田中 佳音	10	2	2	0	2	14	市原 やちる	-	-	-	-	-
32	中村 璃音	-	-	-	-	-	15	島 皐希	2	0	1	0	0
* 83	稲葉 明花	15	2	2	5	3	16	岡見 凜	-	-	-	-	-
* 88	竹口 桜礼	7	1	2	0	2	17	刑部 千花	-	-	-	-	-
91	新城 凜々華	-	-	-	-	-	18	西田 彩花	4	0	2	0	0
コーチ	吉田 聡						コーチ	市川 藤乃					
Aコーチ	甲良 泰明						Aコーチ	稲原 久美子					
合計		78	7	24	9	18	合計		56	2	19	12	14

クルーチーフ: 新居田 はなの

1stアンパイア: 三宅 廉二

2stアンパイア: 三富 千聖

得点経過



TO	1・2Q	3・4Q	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	:	:	:	:
TeamB	6:16	19:01	:	:	:	:

【戦評】

【第1Q】

両チームともマンツーマンディフェンスで試合開始。京都両洋は#8アレボのゴール下の攻めと、#7山本の個人技やスティールからの速攻で得点を重ねる。対する大阪桐蔭は連携したチームプレーから#6申のミドルシュートやファウルをもらいながらの1on1、フリースローで得点し京都両洋についていく。大阪桐蔭はディフェンスをハーフコートゾーンやオールコートゾーンプレスを織り交ぜ攻撃を凌ごうとするも、#6が京都両洋#8に対して2つ目の個人ファウルを犯す。残り3分、大阪桐蔭は17-8とリードされたところでタイムアウトを請求し京都両洋の勢いを止めようとするが、リバウンド力を活かしたセカンドチャンスから3Pシュートを決めるなど京都両洋が得点を重ね、26-13とリードして最初のクォーターを終えた。

【第2Q】

序盤、京都両洋は#83稲葉、#7の3Pシュートなど外からの攻撃でも得点し、大阪桐蔭を突き放しにかかる。大阪桐蔭も粘り強いディフェンスとリバウンドで攻撃回数を増やし、チーム全員で得点を重ねる。一時19点差まで広がるが、残り2分大阪桐蔭のチームプレーに京都両洋はファウルを重ねてしまい、チームファウルが5つとなりフリースローの得点を許す。クォーター終わり際、大阪桐蔭#8山田が3Pシュートを決めるが、直後京都両洋も#25田中の3Pシュートがブザービーターとなり、43-29と京都両洋リードで前半終了。

【第3Q】

開始早々、大阪桐蔭が6点の連続得点を奪うが、京都両洋も#8が連続得点を決め返し点差は変わらない。攻守にわたり存在感を發揮していた大阪桐蔭の#6が残り4分で5つ目の個人ファウルを宣せられ退場となってしまふ。大阪桐蔭は京都両洋の強固な守りとリバウンド力に攻め手を欠き、なかなか得点がとれない時間が続く。京都両洋は勢いそのままセカンドチャンスからの得点を重ね、66-43と京都両洋のリードが広がって第3クォーターが終了。

【第4Q】

大阪桐蔭はオールコートゾーンプレスやオールコートマンツーマンで激しいディフェンスを展開して追い上げを図る。大阪桐蔭は粘り強いディフェンスとリバウンドを中心にチーム一丸となって激しい攻防を展開し、最後まであきらめない姿勢を見せる。4クォーター後半京都両洋の得点が止まるも、終始高さや運動量を活かしたリバウンド力で試合を優位に進め、78-56で京都両洋が勝利をおさめた。

戦評: 望月 雅史

記録: 県立明石高等学校